

## 「律法学者を非難する」

2015年11月30日

ルカによる福音書 20 章 45 節～47 節。 民衆が皆聞いているとき、イエスは弟子たちに言われた。「律法学者に気をつけなさい。彼らは長い衣をまとって歩き回りたがり、また、広場で挨拶されること、会堂では上席、宴会では上座に座ることを好む。そして、やもめの家を食べ物にし、見せかけの長い祈りをする。このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。」

律法学者はファリサイ派の人々の内で、更に学問を積んだ1ランク上の人である。ファリサイ派は紀元前2世紀頃、民衆に対し、律法に基づく宗教教育をするために生まれた宗教団体である。ファリサイは「区別する」という意味で、律法を厳格に守り、守れない者とは区別されるという自負を持っていた。本来の律法は「神を信じ、隣人と共に生きよ」という喜ばしいものであったが、主イエスの時代、律法体系は膨大に膨れ上がり、煩雑になっていた。律法を押し付けられた民衆はがんじがらめに縛られ、不自由を強いられていた。そこでは、律法を守ることを「清い、浄」とし、守らない者を「汚れた者、不浄の罪人」と烙印し、共同体から排除した。神の名による差別管理社会が作り出されていた。ファリサイ派の人々、律法学者たちは民衆の上に立ち、自らを権威ある者としていた。主イエスは、彼らの過ちと高慢を指摘している。マタイ福音書 23 章では、1 章の全てを用い「あなたたち偽善者は不幸だ」と激しく弾劾している。

彼ら全てが偽善者だった訳ではない。律法理解と運用に疑義を持つ律法学者たちもいた。ヨハネ福音書 3 章に、最高法院の議員であったニコデモのことを記している。彼は人々から尊敬を集めた律法の老大家であった。主イエスの素晴らしい教えを伝え聞き、夜そっと主イエスを訪ね「あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています」と丁寧に教えを乞うている。彼は律法が適切に用いられていないという疑問を持っていたから、主イエスに教えを乞おうとしたのである。また、マルコ福音書 12 章は、受難週に議論を持ち掛けられた主イエスが的確に答えるのを聞いて感嘆した律法学者が「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか」と問うた出来事を伝えている。彼は煩雑な律法体系に辟易し、律法の真髄を知ろうとしている。真摯に律法を問う誠実な律法学者もいた。

ルカ福音書では、主イエスは「律法学者に気をつけなさい」と言い、4 つの偽善をあげている。①「彼らは長い衣をまとって歩き回りたがる。彼らは荘厳できらびやかなラビの服をきて、町中を闊歩していた。主イエスは素足にサンダル履きで、服も伝道旅行で埃だらけであっただろう。「聖なる伽藍、聖なる式典」と言うようになった宗教はこけおどしの権威を担いで、宗教的生命を失ったものと見てよい。」②「広場で挨拶されること、会堂では上席、宴会では上座に座ることを好む。」人々から「先生、先生」と言われ、尊敬を求める。会堂では上席、宴会では上座に座り、人々の視線を浴びることを求める。日本でも「先生と言われるほどのバカでない」という言葉がある。③「やもめの家を食べ物に」する。夫を失った女性は心細く、生活も大変である。信仰を強要して、その女性たちから金品を取り上げる。④「見せかけの長い祈りをする。」信仰深い自分を見せつける偽善である。祈りは聞かせるものではなく、神に向き合うことである。主イエスは最後に「このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる」と諭している。教える者は教えた言葉によって、自分自身が量られることを知るべきであろう。